

日出彦の歳時私記

寄る年波には勝てず、最近持久力を喪失しつつあると自覚する日出彦はこれまでの単発的連載記事をさらりと棄てて、この度、「歳時私記」として初お目見えすることになりました。「歳時」は言うまでもなく、biglobeで辞書検索すると、

(1)年と月。時間。

(2)一年中のおりおり。四季おりおり。 (三省堂大辞林第二版)

と出てくるように、四季おりおりを意味しております。四季折々の私記（別に韻を踏んだわけではありません）を書きなぐっていかうかという趣向です。これなら、内容の連続性を保つ必要もなく、時々気付いたことを書けばよいわけで、永久メモリが減少していても続けられそうです。「歳時私記」という言葉は小生の発明ではなく、すでに保昌正夫というヒトが、「昭和文学歳時私記」という豆本を上梓されています。この本はwebの本屋さんでも絶版のようで、内容を伺い知ることはできませんでした。年をとると前振りが長くなってしまふ弊（よくあるでしょ、乾杯の音頭を頼まれた方が「この中で最も年長ゆえにご指名に預かりまして・・・」と延々10分以上スピーチをして、ビールの気は抜けるは、コップは邪魔になるはで会場が騒がしくなっている場）がありますので、こころで本筋に入ることにいたしましょう。

[1] 柔軟性

持続性だけでなく柔軟性も薄まっている昨今である。先日も横須賀水道みちを東名高速上の陸橋に至る直前の交差点で、<右を見て左を見る>原則を間違えて<左を見て右を見る>確認をした矢先のことである。右から上り坂を猛スピードで飛ばして来た乗用車を発見したが、とき既に遅く小生の狸腹の先を掠めていった。もう一步踏み出していれば多分そのとき腹の皮が破れてお陀仏だった。年をとると、とっさの機敏な動きが困難になるので、常に控え目の行動をすることで丁度よいのだといわれるが、将にその通りを実感した。

肉体ばかりでなく、頭脳も柔軟性を失っていくのを気にしていたら、ネットサーフィンで「柔軟性チェック」というのをみつけた。早速やってみると、結構良い卦が出たので紹介しよう。Webのアドレスを書いておきますので、皆さんもお試しあれ。

柔軟性 86%

とても柔軟性に優れており、何事にも臨機応変に対応できます。

あなたはこんな人

相手の価値観を尊重して、なおかつ自分の意見もしっかりもっているすばらしい人です。合理的・論理的に考えることができ、心にゆとりを持っています。物事を事実に基づいて判断できる人です。また、無理なことはきっぱりあきらめることができます。

希望に叶うものが見つかるまで探すことができる夢追い人です。素敵！

人間関係を円滑に運ぶために相手のことも考えながら話すことができます。

home.interlink.or.jp/~tsark/heart/pc/junan.html

このように、褒めちぎられると悪い気はしない。学生に褒め褒めで接しようとするのであるが、甘い顔をするとすぐ付け上がる習性があるので、時には手綱を引き締めないといけない。

来年もいまの形で大学との関係が続きそうなので、若者から柔軟性を吸収して健康の一助となればと考えている。

[2] (観V&Cリスト号外) オペラ座の怪人

Gyao という無料動画サイトで「オペラ座の怪人」の映画をみた。2年前の最新版の方だ。テレビと同じで細切れになるのが難であるが、最近 My Gyao という頁ができて、視聴予約ができると共に、途中で視聴を止めても、次回はその箇所から続けて見られるようになった。



(コマーシャル回数が増えるのが難点であるが…) 結局、空いた時間を探しては、この映画も都合3回に分けて視聴した。なかなか凝った演出で、回顧場面がカラーで、現在(といっても20世紀初頭か?)がモノクロになっている。タイトルクレジットをみて、あの「黄色い部屋」のガストン・ルルーの原作だったのに気付く。迂闊! 「ファントム」を「オペラ座の怪人」と訳した先人のセンスには脱帽だが、現在で言う劇場を根城とする単なるストーリーカー物語になってしまうのが、ゴシック風の雰囲気や荘重さを醸し出しているというギリギリのお話である。昨年、パリのオペラ座を見に行ったが、(もちろん外観だけ)、我が国でも歌舞伎座とか国立劇場とかに何かがないもおかしくない。映画を観終わって感じたのだが、現在の

ファントムというのは怪人のことだけでなく、劇場やそこに出演していた俳優たちのいなくなった今(つまりモノクロで表現されていた時代)から見た往時を含めてつけられているように思う。



鑑賞後、コマ切れでなく観られる DVD を借りたいと思い、また、劇団四季を見に行こうと思う衝動に駆られた。ネット検索によると、四季のオペラ座の怪人は来年 3 月で千秋楽になるようだ。よくできた映画なので、評価は DVD を観た後に残そう。

[3] C 級パニック映画

映画ついでに、C 級の SF やパニックの映画についてひとこと。巨大なハリケーン、大津波、大地震、昆虫大発生、それにバイオハザードなど、DVD のラベル絵に惹かれて借りてみるが、火の玉で萎んでしまった線香花火みたいな終わり方をするのがほとんどだ。もちろんビッグな俳優はでていない。(時々出くわすこともあるけどね。) 誰も気付かない思わせぶりの徴候がある、町から外れた場所で犠牲者が出ている、マッドな科学者が異常なデータを発見、と出だしはいいのだが、主人公が活躍し始めると、人間関係のパニックストーリーに移ってしまう。特撮もチャチなものが多い。脱獄囚、ハッカー、異常者などとの対決場面は問題のハザードとは無関係な場所で行なわれる。主人公が動き回り、最悪の災害を回避して、人間関係もハッピーエンドだ。例えば別れて暮らしていた奥さんと縊りが戻る。見終わるとフラストレーションが溜まってしまふ、このような映画を小生は < C 級 > と定義している。到底、本誌で内容を紹介したいとは思わない。見たいのはシカゴやニューヨークの壊滅なんだ！ 自然災害のシミュレーションなのだ。人間系の事件は他のジャンルの映画でみれば十分。見たいものを早く見せろとイライラしつつ最後までみてしまつて、なんだこれは！ というのが C 級のゆえんである。小生が初代の「ゴジラ」や「マーズアタック」や「黒い絨毯」を上位にランクするのも分かるでしょう。

[4] お香

家では匂いが籠ってしまい家人の手前できないのだが、大学の研究室は独立した自由な部屋なので、お香を焚く。といっても、粉末ではなく、線香の形に練り固めたものだ。インドやインドネシアは独特な香りのする国であって、入国すると直ぐ香りの出迎えがあるが、現在の我が国はこれに比べ、においに縁遠い、あるいは無臭の国かもしれない。西洋のように元来強烈な体臭を有する民族は香料の発達をみたというが、着物に香を炊き込めた平安朝の貴族はやはり風呂には入らなかったのではあろうか。

発端は京都に旅をしたときで、あいにく雨模様になってしまった。三年坂あたりだったと思う。ふと気付いた店先で容器のおもしろさで、お香を買ってしまった。それから暫く放っておいたのだが、今度は北海道を旅したときに、小樽の北一ガラスで香立てを見て、お香のことを思い出し、衝動買いしてしまった。最初は白い花びらを散らしたグリーンのものであったが、翌年、再び小樽でオレンジのものを求め、いいペアになっている。ガラスの香立ては涼しい。

初めてのときは研究室でおそろおそろお香を試した。京都で求めたそれは三種類のミックスだったので、香りを結構楽しめた。それからは、小京都といわれる町や江戸情緒を残す町に行くときはお香を買い求めた。金沢、高山、名古屋、徳島、仙台、川越、犬山など。最近は鎌倉で買い求めるようになった。小町通りにある鬼頭天薫堂がその店である。高いのは上限がないようなので、比較的安いものを探す。初心者向きの「四季の散歩道」シリーズがお勧めである。

先日、秋しるべを買ってきた。夏は露草色（青）、薄香色（黄）、浅緑（緑）の三種だったが、「月見」というサブタイトルがついて群青色、銀鼠色、花浅葱色の三種である。ところで、学生用に浅黄、赤、紫の取り合わせで、華やかな「花こもん」というのも買った。人生の後半を思わせるしっとりした「月見」よりも、学生諸君にはこちらの方に人気がある。匂いもずっと強い。授業から戻ったときに、学生がこれを焚いていると、部屋に入った途端、思わず噎せてしまうほどだった。



[5] ピクチャーマンホール考

マンホールの蓋のことをグラウンドマンホールというらしい。日本グラウンドマンホール工業会というのがあり、そう定義している。このふたのデザインの歴史はこの工業会のホームページにある。これによると絵画のようなデザイン化が進んだのは建設省主導で昭和60年代初めからとなっている。いわゆる模様は明治から大正にかけてとあるので歴史がある。マンホールのふたのデザインについてはすでにうさお氏の紹介があるのでご存知の通りである。マンホールのふたに無模様のもはデザインがないかという＜空＞の美学もあるので、これもデザインのひとつと考えるとよいかも知れない。しかし、金属のふたではこのようなものはないらしい。表面をセメントで覆ったものはよく見かけるけれど。とすると、「デザインマンホール」でないものを探す方が難事である。この命名自体の意味もなくなるが、すでに広く使われている。欧米各国では幾何学模様や紋章入りのものばかりで、絵画的なものは極めて少ない。小生の知るところ、米国のシアトルあたりにあるだけである。とすれば絵入りのマンホールは我が国独特なものかもしれない。小生は絵入りのデザインマンホールを＜ピクチャーマンホール＞と呼んで、他の模様や紋章とは一線を画している。東京24区や京都市にはピクチャーマンホールは見当たらない。鎌倉市にもごく僅かしかない。ということは首都や古都はピクチャーマンホールの必要がないのだろうか。確かに新興都市や地方都市で競ってピクチャーマンホールを作っている気配がある。つまり、町興しとか観光誘致とかの理由が大きいのではないかと思う。前述の工業会ではマンホールのデザインについて次のような要求事項をまとめているので、引用してみよう。

(1) 飽きがこない

モチーフを生かした幾何学的模様など、長期間の使用に耐えるデザインであること。

(2) 非方向性

一方向だけから見た場合に、意味のわかるデザインでなく、極力方向性のないデザインがのぞましい。

(3) 耐久性

長期間の間に模様が磨滅されるが、磨滅による味わいがでるようなデザイン。

(4) 素材感

鋳物の重量感、暖かさを感じるデザイン。

(5) 地域個性

単純発想でなく、表現工夫がなされたデザイン。

(6) スリップ防止

道路と同等の走行性を持たせ、安全性を配慮したデザイン。

無模様のグラウンドマンホールは(6)の要求を満たさないもので、存在しないわけだ。ピクチャーマンホールは(2)の条件を完全に満足しない。説明の幾何学模様だと飽きが来ないかどうかは意見がわかれそうところだが、ピクチャーマンホールは(1)と(5)、

ものによっては（４）も満足していると思う。特に、（４）がポイントだ。

うさお氏同様、小生も旅するたびにピクチャーマンホールの写真を撮ってくるが、ケータイの写真なので夜はピンボケになって失敗する。カメラはデジカメが望ましい。失敗がすぐ分かるからだ。

撮影の7つ道具としては、①携帯箒（事前に表面のごみをとる）、②金属へら、③ワイヤーブラシ（これらは表面や溝にこびりついている汚れをとる）、④ウエットティッシュ（仕上げの表面みがき）、⑤三脚か脚立（円形に写るように真上から撮影；普通に撮ると楕円になる）、⑥ヘッドランプ（周りの影が写りやすいので真上から照明）、⑦通行止めの道路標識（車道の真ん中にあることが多いので）を持参することが望ましい。万一に備えて、健康保険証を持参すること。

ピクチャーマンホールは①おすい（汚水）、②うすい（雨水）、③消火栓に集中している。③のデザインは消防車と画一的だが、東京のように漫画チックなものもある。①は流れているものが汚れているので、せめて蓋だけはきれいにという気持ちからか。

マンホールといってきたが、人が入れないサイズのものもある。アームホールとかフィンガーホールというべきものだ。小さすぎるものは対象から外してよい。絵が描けないからだ。

商店街とか市役所の前とか人の出入りの激しいところは、カラーピクチャーマンホールになっていることが多い。モノクロよりもやはりカラー版を写真に撮りたいが探しまわらないといけない。

以上で、あなたもピクチャーマンホールリストになれます。

さて、世間にはこのような趣味を持つ人がたくさんいる。これはwebで検索するとよく分かる。最後に、ピクチャーマンホールの写真を掲載しているホームページを厳選して紹介しておこう。

自分で写真を撮る参考になると思う。

【北海道地区】

<http://www.namara-hokkaido.net/hokkaido/category.php?cid=8>

<http://www.geocities.jp/hokkaidokitte/manhole-ho01.html>

【東北地区】

<http://www.pref.fukushima.jp/kenpokuryuwiki/manhole.html> 福島県

<http://www.pref.akita.lg.jp/icity/browser?ActionCode=content&ContentID=1135558308968&SiteID=0> 秋田県

【中部地区】

- <http://www.nbk-okamoto.co.jp/seihin/man/ma020.htm> 岐阜県
- <http://red.kakiko.com/hagiwara/manhole/index.html> 愛知県
- http://www.city.inazawa.aichi.jp/ka_annai/gesuidou/manhole.html 愛知県稲沢市
- http://www.pref.toyama.jp/cms_cat/305020/kj00000378.html 富山県

【近畿地区】

- http://ms5y.web.infoseek.co.jp/photolog/archives/cat_cat1.html 近畿一円
- <http://ms5y.web.infoseek.co.jp/manhole.htm> 近畿一円
- <http://www.pref.osaka.jp/hokubugesui/html/topic/html/topic5.html> 大阪府
- <http://www.neyahoku.higashiosaka.osaka.jp/manholl.htm> 大阪府

【中国地区】

- <http://nagao.road.jp/manhole/mahhole-frame.htm> 広島県
- <http://www.city.ube.yamaguchi.jp/gesui/kensetsu/4/index.html> 宇部市

【全国】

- <http://youldai.hp.infoseek.co.jp/> 市町村別（北海道、中部、近畿、中国、四国）
- <http://www.secret.ne.jp/~manhole/guild/museum/> マンホールギルド
- <http://manhole-guild.ah-cha-doh.com/?month=200603> 同好会投稿
- http://blogs.yahoo.co.jp/maro_mabu/folder/1039326.html 同好会投稿
- <http://www6.airnet.ne.jp/manhole/best/best.html> カテゴリー別（蒸気機関車、漫画のキャラクターなど）
- <http://www1.c3-net.ne.jp/hamachan/manholu.html> カテゴリー別（名所、花鳥など）
- <http://www.ocn.zaq.ne.jp/seiundou/nakata.html> 中田英紗氏の拓本（これには恐れ入りました。拓本とはねえ。アートなのです。）
- http://www.noda-dd.com/mh_01.html デザイン事務所（これは文字通りデザイナーの下絵集）